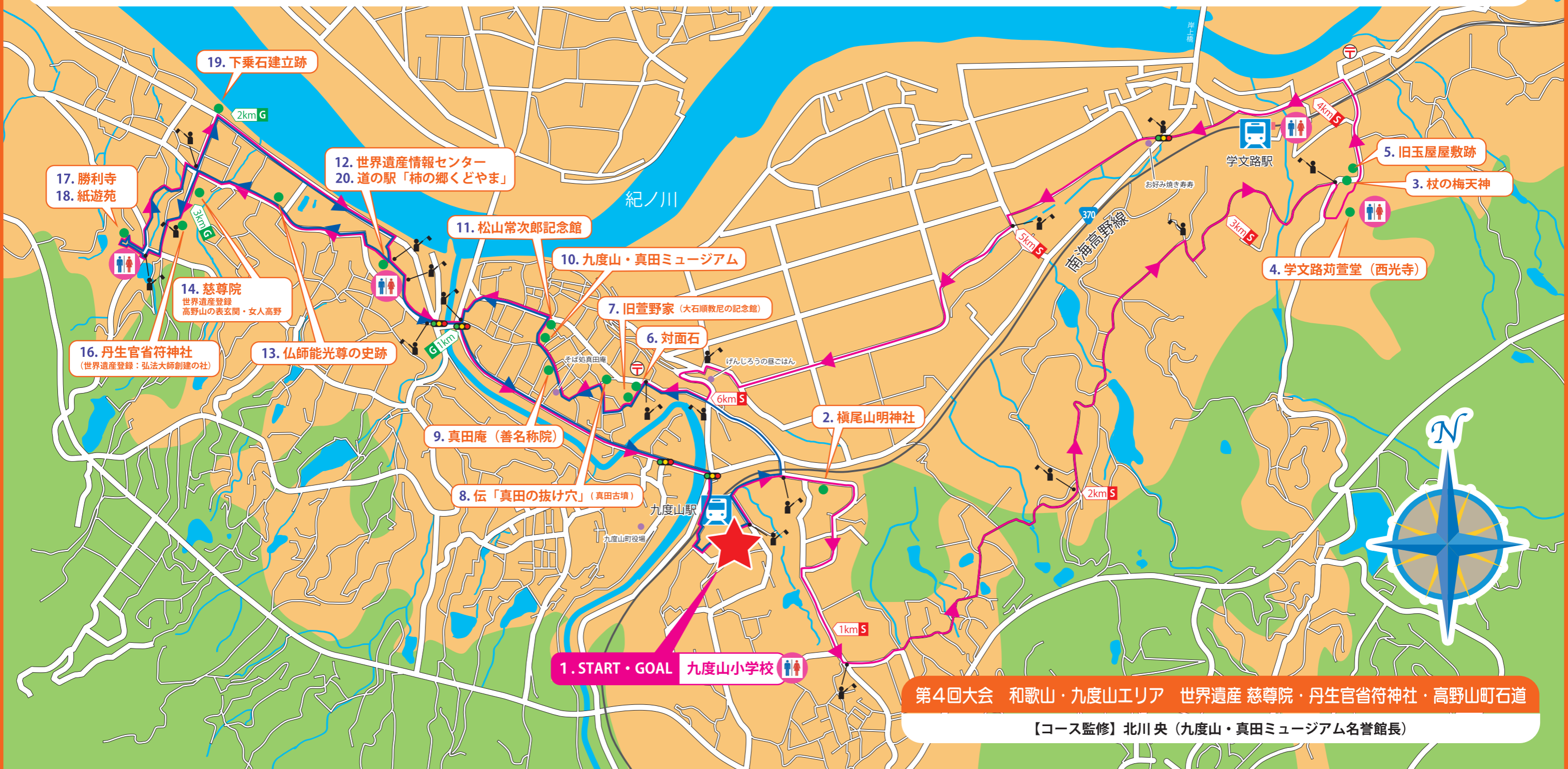


スペシャルコース (約 11km)

1 九度山小学校 → 2 槇尾山明神社 → 3 杖の梅天神 → 4 学文路苅萱堂 (西光寺) → 5 旧玉屋敷跡 → 6 対面石 → 7 旧萱野家 (大石順教尼の記念館) → 8 伝「真田の抜け穴」(真田古墳) → 9 真田庵 (善名称院) → 10 九度山・真田ミュージアム → 11 松山常次郎記念館 → 12 世界遺産情報センター → 13 仏師能光尊の史跡 → 14 慈尊院 (世界遺産登録：高野山の表玄関・女人高野) → 15 高野山町石道 → 16 丹生官省符神社 (世界遺産登録：弘法大師創建の社) → 17 勝利寺 → 18 紙遊苑 → 19 下乗石建立跡 → 20 道の駅「柿の郷くどやま」 → 1 九度山小学校

ファミリーコース (約 5.5 km)

1 九度山小学校 → 6 対面石 → 7 旧萱野家 (大石順教尼の記念館) → 8 伝「真田の抜け穴」(真田古墳) → 9 真田庵 (善名称院) → 10 九度山・真田ミュージアム → 11 松山常次郎記念館 → 12 世界遺産情報センター → 13 仏師能光尊の史跡 → 14 慈尊院 (世界遺産登録：高野山の表玄関・女人高野) → 15 高野山町石道 → 16 丹生官省符神社 (世界遺産登録：弘法大師創建の社) → 17 勝利寺 → 18 紙遊苑 → 19 下乗石建立跡 → 20 道の駅「柿の郷くどやま」 → 1 九度山小学校



第4回大会 和歌山・九度山エリア 世界遺産 慈尊院・丹生官省符神社・高野山町石道
【コース監修】北川央 (九度山・真田ミュージアム名誉館長)

1. 九度山小学校



九度山町立の小学校。明治6年(1873)、旧遍照寺を校舎として創立。昨年創立150周年を迎えた。明治44年(1911)に現在地に移転。3階の教室からは、九度山の町並みとともに、紀の川の向こう岸に橋本市高野口町、かつらぎ町が一望できる。

2. 槇尾山明神社



寛政10年(1798)に書かれた遍照寺縁起の「善根功德之記」には次のように記されている。「弘法大師空海が槇尾山(大阪府和泉市)で修行していた頃、傍らの弁財天を信仰して日夜お参りし、高野山を開いたのちも変わらず篤く信仰し、毎月九度ずつ槇尾山に参詣を続けた。ところがある日、九度山まで下りて来ると、吉野川(紀の川)に大水が出て、渡れずに困っていた。するとそこに弁財天が現れて、この地にわれを移し祀れ、と告げた。空海はこの山へ弁財天を移し祀り、「槇尾山」という自筆の額を掲げた。これにより社を槇尾山明神社といひ、傍らに別当寺を建てて遍照寺と名付けた」。槇尾山明神社本殿・弁財天社本殿はいずれも国登録有形文化財。また境内には、九度山町指定文化財の槇尾山明神法華経供養碑がある。

3. 杖の梅天神



橋本市学文路の高野参詣道京大坂道沿いにある。弘法大師空海が、故郷の讃岐(香川県)から杖として突いてきた梅の木を、この地に差し置いたのが芽ついたといわれ、梅の縁により小さな社を設け、天神を祀ったと伝えられる。

4. 学文路苺堂(西光寺)



かむろかるかやどう

西光寺は高野山真言宗の寺。隣接する学文路苺堂は、説経「苺堂」ゆかりの御堂。平安時代後期、筑前国(福岡県)の領主であった加藤左衛門尉繁氏は、世の無常を感じ、領地も地位も捨てて高野山に登った。修行の日々を送り、「苺堂道心」と呼ばれるようになった。繁氏出家ののちに生まれた石堂丸は、父が高野山にいるらしいとの噂を耳にし、母の千里の前とともに高野山を目指した。ところが高野山は「女人禁制」のため母は登れず、石堂丸は学文路に母を残し、一人で高野山に登った。父をたずね歩くと石堂丸は奥の院の無明橋(御廟橋)で一人の僧侶と出会う。この僧こそ苺堂道心であったが、苺堂道心は、そなたの父は既に亡くなったと石堂丸に嘘を言い、母とともに故郷に帰るように諭した。ところが石堂丸が学文路に戻ると、母は急病で亡くなっていた。石堂丸は再び高野山に登り、苺堂道心の弟子となったが、生涯父子の名乗りをすることはなかったという。苺堂にはこの説経「苺堂」に因む信仰資料がたくさん伝存し、和歌山県指定有形民俗文化財となっているが、その中に、千里の前が肌身離さず信仰したと伝えられる「人魚のミイラ」がある。

5. 旧玉屋敷跡



玉屋敷跡にあった千里の前の墓は平成5年(1993)に苺堂堂本堂南側に移され、毎年3月には供養の法要が営まれる。

「女人禁制」のため高野山に登れなかった石堂丸の母千里の前が滞在した宿「玉屋」の跡。

6. 対面石



若い頃、槇尾山(大阪府和泉市)で修行した弘法大師空海は、同所の弁財天を信仰し、高野山開山後も、毎月九度は槇尾山に参詣していた。吉野川(紀の川)が増水し、渡れずに困っていた空海のもとに

弁財天が姿を現し、この地に移し祀れとお告げをしたという。その場所がこの石の前であったことから、これを「対面石」と呼ぶようになったと伝えられる。また、空海の母が四国の讃岐(香川県)からはるばる息子を訪ねて来て、この場所で対面したともいわれる。

7. 旧萱野家(大石順教尼の記念館)



江戸時代中期に高野山真蔵院の里坊・不動院として建立され、明治時代まで続いた由緒ある建物。民家(萱野家)として現存したが、平成21年(2009)2月に文化財の保存・保護のため九度山町が譲り受け、平成22年(2010)1月27日より一般公開している。門・主屋・土蔵の三棟は九度山町指定文化財。ここでは、大石順教尼がしばしば滞在した。順教尼は、明治38年(1905)に養父中川萬次郎が

起こした「堀江六人斬り」事件に巻き込まれ、17歳で両腕を切り落とされた。けれど、苦難の道乗り越え、筆を口にくわえて書く技法を習得し、書画の世界で活躍した。尼僧を志し、高野山金剛峯寺において得度した。館内では、不動院伝来の貴重な寺宝とともに大石順教尼の作品が公開されている。(入館無料)

8. 伝「真田の抜け穴」(真田古墳)



真田庵から東へ170mほどの所にあり、大坂冬の陣勃発の折、真田幸村(信繁)はこの抜け穴を通じて九度山を脱出し、大坂城に向かった、と伝えられてきた。実際は、古墳時代後期(6世紀頃)の古墳の横穴式石室で、墳丘は削られて失われているが、玄室からは須恵器杯・高坏脚部・土師器皿・円盤状石製品などが出土している。

真田庵から東へ170mほどの所にあり、大坂冬の陣勃発の折、真田幸村(信繁)はこの抜け穴を通じて九度山を脱出し、大坂城に向かった、と伝えられてきた。

9. 真田庵(善名称院)



真田昌幸・幸村父子の屋敷跡に建てられた寺。関ヶ原合戦後、高野山に蟄居を命じられた信州上田城主の真田昌幸とその子幸村は、当初、高野山上の蓮華定院に入ったが、しばらくして麓の九度山に移った。昌幸は、慶長16年(1611)6月4日にここで亡くなり、幸村は墓(宝篋印塔)を建てて父の菩提を弔った。その後、寛保元年(1741)に大安上人がこの地に寺を建てた。本尊は延命子安地藏菩薩。境内に昌幸の墓があり、真田家ゆかりの資料を展示する真田宝物資料館もある(入館料200円)。本堂・大安上人廟・土砂堂は和歌山県指定文化財、位牌堂・長屋門・北門は九度山町指定文化財。

12. 世界遺産情報センター



道の駅「柿の郷くどやま」の施設内にある。世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の九度山町ゾーン、町石道ゾーン、高野山ゾーンをパネル展示などで紹介。九度山の歴史や高野山について学ぶことができる。

13. 仏師能光尊の史跡



仏師であった能光尊は鳥羽上皇時代の人で、美作国(岡山県)の生まれ。のちに現在の九度山町入郷に居住した。永治元年(1141)高野山中門の多聞天、持国天の二像を彫刻し、その他幾多の仏像も彫刻した偉大な仏師であった。昔から首より上を病む人にご利益があるといわれ、遠くからもたくさんの人々が訪れる。能光尊の命日である4月5日には、供養にもち掛けが行われる。

10. 九度山・真田ミュージアム



真田昌幸・幸村・大助の真田三代の生涯を長く後世へ語り継ぐことを目的に、平成28年(2016)3月13日にオープンした。真田昌幸・幸村・大助の真田三代の軌跡と、彼らの九度山での生活、各地に残る伝説などをパネル展示やドラマ仕立ての映像により紹介している。

14. 慈尊院(世界遺産登録：高野山の表玄関・女人高野)



平成16年(2004)7月世界遺産に登録された慈尊院は、弘仁7年(816)弘法大師空海が、高野山開創に際して、高野山参詣の表玄関にあたるこの地に伽藍を建てたのが始まりと伝える。高野山の庶務を司る政所(まんどころ)や高野山参詣のための宿泊所が置かれた。弘法大師の母公が晩年に移り住んだと伝えられ、没後、母公が篤く崇拜した弥勒菩薩坐像と母公の像を安置するため、弥勒堂が建立された。高野山上は女人禁制だったのに対して、こちらは女性も参拝

11. 松山常次郎記念館



九度山町から選出された唯一の衆議院議員松山常次郎(1884~1961)の実家を改装した施設で、常次郎に関する遺品や資料が展示されている。常次郎は、実業家として会社を設立し、韓国に広く水田を開拓した。その後、衆議院議員に当選し、海軍政務次官などを歴任。日米開戦を防ごうと努めたものの、開戦となってしまい、戦後は戦犯とされ、政界を去った。故平山都夫画伯の夫人美知子氏は常次郎の長女。★入館料200円 小中学生100円

15. 高野山町石道



慈尊院から高野山へと続く約20kmの道程で、平成16年(2004)7月に世界遺産に登録された。一町(109m)ごとに建てられた「町石」と呼ばれる卒塔婆石(そとぼういし)が今も残る。千年余りにわたって、歴代の

上皇、関白、将軍、また多くの一般庶民が踏み固めてきた信仰の道である。高野山の表参道で、今回はその一部を歩く。

18. 紙遊苑



「高野紙(古沢紙)」の伝統文化と技術を伝える体験資料館。紙遊苑の建物は、もともとは勝利寺の庫裏で、九度山町が譲り受けて改修し、往時の姿に復元した。弘法大師空海から教えられたと伝える手漉き和紙の「高野紙(古沢紙)」は、鎌倉時代初期には經典の印刷用紙や書写用紙として盛んに用いられた。厚紙で丈夫という特長を生かし、傘紙・障子紙・合羽・紙袋・提灯などに用いられ、最盛期の明治7年(1872)~9年頃には高沢・河根地域を中心におよそ100軒の家々が紙漉きを行っていたが、昭和30年代以降、急速に需要が減り、衰退した。内部では、高野紙を漉いていた風景がジオラマで展示されており、紙漉きが栄えていた頃を偲ぶことができる。毎年、和紙をテーマとした「民芸和紙展」「アサガオ展」「スイセン展」など、さまざまな企画展が開催される(入苑料:無料)。庭園は小堀遠州流の借景の庭園として知られる。

16. 丹生官省符神社(世界遺産登録：弘法大師創建の社)



弘法大師が慈尊院を開創した弘仁7年(816)、その守り神として地元ゆかりの丹生都比売(にうつひめ)・高野御子の二神を祀った神社。慈尊院から119段の石段をのぼった高台にある。社殿三棟は木造一間春日造、檜皮葺、極彩色北面で国の重要文化財に指定されている。和歌山県指定文化財の鼎(御湯釜)・獅子頭、真田幸村奉納と伝えられる一文字太刀などを所蔵する。

19. 下乗石建立跡



高野山を目指す参詣者は、渡し船で近くの嵯峨浜という船着場から上陸し、この場所から高野山の入口・慈尊院へと歩みを進めた。「下乗石」は、文字どおりここから先は馬や輿など乗り物から降りねばならないことを示すとともに、俗界と聖地の境界を示す結界標識的な意味合いを持っていた。現在、下乗石は慈尊院山門前に移されている。

17. 勝利寺



弘法大師空海が42歳の時に厄除観音を祀ったと伝える寺。高野山参詣道の玄関口に位置し、高野山へ向かう貴族、武士、庶民たちで大いに賑わったといひ、その歴史は慈尊院よりも古いとされる。紀の川を望み、雨引山を背にたたずむ姿は荘厳さに満ちている。安永2年(1773)完成と伝えられる仁王門や本堂・地藏堂・鐘樓などが九度山町指定文化財となっている。

20. 道の駅「柿の郷くどやま」



平成26年(2014)4月オープン。九度山ブランドの富有柿をはじめ、四季を通じて地元農産物や特産品が販売されている。焼きたての創作パンを販売するベーカリーカフェ「パーシモン」、地元産にこだわったパウムクーヘンの店「九度山ぼうむ」などもあり、世界遺産情報センターも設置されている。芝生広場では毎年5月4日・5日に「紀州九度山真田まつり」、11月の第2土曜日・日曜日には「大収穫祭 IN 九度山」が開催される。

大会途中で乗換したり、救護を要する時は… **TEL 080-8506-5200**
 大会本部 (Central Site) 救護 (First Aid) この電話は大会当日のみ有効です